

第1回 リニア環境未来都市検討委員会 会議録

1 開催日時

平成27年8月12日（水）午後2時00分から

2 開催場所

ホテル談露館 1階 アンバー

3 出席者の氏名

- (1) 委員 北村委員長 大山副委員長 齊藤委員 篠沢委員 島崎委員
田中委員 樋口委員（代理：山本副市長） 松野委員 溝口委員
- (2) 事務局 佐藤リニア交通局長 岡リニア交通局次長 市川リニア交通局技監
小田切りニア推進課長 清水リニア交通局主幹 若尾リニア交通局主幹
- (3) 傍聴者等 14人

4 会議の議題

- (1) リニア中央新幹線の計画概要とリニア駅周辺整備に係るこれまでの検討状況について
- (2) リニア環境未来都市整備方針策定に向けた検討とスケジュールについて
- (3) その他

5 議事の概要

（委員長あいさつ）

- ・山梨県の将来にリニアをどう生かしていくかがテーマの会議。大いに意見を交していただければと思う。議事に先立ち今回は第1回目の委員会ということで、各委員からリニアを活用した県土づくりなどについて、ご意見をいただきたい。

委員：駅周辺の地域は、市街化調整区域になっており調整が難しい。また駅から東側へ行き笛吹川を越えると都市計画の白地地域になり開発圧力に対し脆弱な地域である。ここに関しても早く手を打たないと開発のコントロールが難しい。都市計画の制度上、問題を抱えており、いろいろ工夫が必要である。

委員：通過駅にさせないことが非常に大事。海外からでも首都圏からでも構わないが、ここに人を引き寄せるものをどう創っていくかが重要なこと。そのためにはマーケティングとかターゲティングという発想を強くもって、明解な特徴とかコンセプトを打ち出していく。できるだけ鋭く広域に渡って目立てるコンセプトを打ち出していくことが、まずは大事と感じている。

委員：1990年頃、川の問題がそれまで治水・利水だったのが環境面に配慮して親水ということを行うようになってきた。信玄堤を見てきたが、想像していたよりも上流からシステムチックに治水を考えられていた。リニア駅に関しても駅を考えるのだが、駅までに至る部分をどう考えるのか。リニア駅周辺という視野でとらえるのではなく、かなりいろいろな部分を考え調整していく必要がある。

委員：3つ簡単に述べたい。1つ目が太陽のエネルギー等、自然のエネルギーをできる限り有効に使う。無駄なエネルギーを使わないことを大前提にしてほしい。2つ目が最先端の省エネ技術を導入してもらいたい。照明であればLED、空調であればヒートポンプなどである。またこの地域は地下水も豊富なので、地域特性を生かした最先端技術、多少割高にみえても長い目で見ればペイできるような最先端技術を入れてほしい。3つ目がエネルギーの面的利用として建物単位ではなく都市全体でエネルギー供給を考える。ソーラーパネルに加え、山梨県の大きな柱である燃料電池で発電し、熱を観光や農業に使えればと思う。

委員：中央市では、リニア活用推進懇話会を立ち上げて、中央市にとってリニアをいかに活用していくか検討いただいている最中である。リニアを生かしたまちづくりは大変重要な課題ととらえている。通過駅にしてはならず、いかにして人を降ろすかである。乗降客という言い方をするが、乗ると言うよりもいかにして人を降ろすかということが一番先に重点的に考えていく必要がある。

- 委員：甲府市では、6月に未来創り重点戦略プロジェクトを公表した。その中にリニアのまちづくりについてのビジョンを今年度・来年度の2カ年かけて作ることを打ち出した。この会議とも連動しながらビジョンづくりを進めていきたい。先般、山梨県・甲府市・中央市で駅周辺のまちづくりを考えていく仕掛けもつくったので、これも活用していながらいろいろ考えていきたい。駅周辺は優良農地がたくさんあり、土地利用について多くの可能性と制約がある場所である。また低い場所なので治水対策も避けられない課題になっている。そのような対応をきちんとやっていかないといけない面と、リニアを好機ととらえ、産業やインバウンド観光などについて施策そのものを大きく変えていくチャンスである。
- 委員：全国的に人口が減り続けることを考え、山梨の人口が増えるために、山梨県をリニアで人を降ろすような場所になるようにしたい。多くの方が住みやすい街にするには、首都圏への通勤も可能になる、子育てをしやすい街ということをアピールして、子どもを産み育てる世代が山梨の土地に住んでもらう、そういった方向を考えていきたいと思う。
- 委員：リニアにより生活に支障を来す方もいる中で、そのような人々も納得、ある程度理解されるようなリニアビレッジというか、例えばユニバーサルデザインの設計がされた非常に住みやすいところ、様々な人達がそこで心やすらぐタウンというかビレッジができればいいと思っている。世界の人達をおもてなしするサービス拠点、それから日本人独特のホスピタリティを育む、その両方が相まったすばらしい拠点、そのようなサービス人材の育成にも役立つ場になればうれしいと思う。

(1) リニア中央新幹線の計画概要とリニア駅周辺整備に係るこれまでの検討状況について

- 委員長：リニア中央新幹線の計画概要とリニア駅周辺整備に係るこれまでの検討状況について事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局：資料説明（資料3～9）
- 委員長：説明について質問・意見等があれば、お願いしたい。
- 委員：2本の河川に挟まれている水害が頻発される地域とのことだが、過去どれくらいの状況であったのか頭に入れておきたい。
- 事務局：駅予定地が、新山梨環状道路より1mくらい低い地形になっている。過去大きな台風の時、駅予定地にある田んぼが浸かってしまい、道路も冠水したと聞いている。
- 委員長：内水氾濫が頻繁にある。ハザードマップもかなり深い。今度詳しい情報を事務局で調べておいた方がいいと思う。
- 委員：今までの議論がどうなってきたのか、次回資料でも良いので示してほしい。それをベースに議論を深めていくという話があったので、今までどういう議論で進めてきたのか。今回概要を説明してもらったが、議論の経緯を教えてください。
- 委員：リニア環境未来都市といったときのエリアはどう考えるべきなのか。
- 事務局：リニア駅を中心として一定の範囲になる。どれくらいの範囲になるかは、いろいろな視点から駅一体として考えなければいけない範囲がでてくると思うので、まさにそのあたりをご意見いただく中で詰めていきたい。今の段階で明確な範囲をもっているわけではないので、是非ご意見をいただきたい。

(2) リニア環境未来都市整備方針策定に向けた検討とスケジュールについて

- 事務局：資料説明（資料10～14）
- 委員長：説明について質問・意見等があれば、お願いしたい。
- 委員：一番耳に残ったのは品川から25分でここまで着いてしまうこと。東京の人からすると驚きの時間距離である。東京圏の3,000万人からの目線で見たときに、たった25分でここまで来られる。通過駅にさせない目的駅にさせるという考え方から、今まで積み上げてきた計画の中で目についたのが産業振興機能のところで、生涯健康寿命のパークということを出している。これからの超高齢社会、それから東京のみでは対処しきれない富裕層を含む介護・福祉・リハビリ・リラクゼーションの需要のことを考えると、おもしろいところを突いたコンセプトではないかと思っている。この資料12に書いている以上に具体的なイメージしているようなケースや検討の状況があれば、もう少し教えていただきたい。
- 事務局：次回以降、詳細な検討をしていただくという予定で、今回資料を付けさせていただいた。次回もう少し議論が深まるような形で情報提供できるよう準備する。

委員：資料14の関連調査は、いつ頃答えがでてくるのか。

事務局：次回検討委員会で速報版、その次でクロスとか、もう少し細かい集計ができたらと思う。一度に詳細なものまでは出せないと思うが、順を追いながら議論の参考となるような形で出していきたい。

委員：資料14の調査。例えば定住促進に向けた意識調査は大事だと思うが、首都圏の人にこういった調査を行うとイメージで答えられてしまう。既に山梨県内に来ているIターンUターンで戻ってきている人達への調査が何かあれば、もう少し具体的な意見を聞けるのかなと感じた。また観光客への調査がないのだが、観光についてはどうなのか。今は1時間半から2時間かけて山梨に来ているのが25分ということになると観光の形も大きく変わるので、そのあたり何か参考になる調査を。

これは意見だが、産業の振興それから新しいライフスタイルというところがかなり重要な感じがする。このあたりを考えていくと、山梨県全体の魅力を高めることを考えなければならぬ。そうすると駅周辺のエリアだけで完結する話ではなく、もう少し広域的な山梨県全体の話を踏まえながら駅周辺の部分を考えなくてはならず、広域的な話は避けられないのかなと思う。例えばライフスタイルで言うと駅周辺にただ住むのではなく、通勤圏に便利だからそこに住み通勤する人、駅から少し離れた農村のところに入ってまったく別世界の生活をする人、高齢者の人が健康を求めてきたり、または東京にはない子育てをしたいというようにいろいろなパターンがあると思う。その時に駅周辺だけでなく、駅と周りとの関係の相乗効果によって、どういう生かし方をするのか考えなくてはいけない。そうすると少し広域的に山梨の魅力・地域資源をどうやって発見してどうやって磨いていくのか。よくあるまちづくりの常套手段であるが、イメージ的なところではなく、足下をしっかりと見ていくことが大事である。

事務局：調査項目はこれから最終決定し実施していくので、今いただいたご意見を参考にさせていただきたい。今の段階で意向調査では、リニアを利用する目的については様々なものがあると思う。観光という観点で利用する人もいるので、観光の観点で利用される方にその人達がどう思っているのか聞いていきたい。観光客のニーズというか思いもなるべく吸い上げていきたい。IターンUターンの予備軍への調査も予定しているし、既にIターンUターンしている人の意見も大切だと思う。

新しいライフスタイルについて、駅周辺だけで完結するのではなく、その周辺を含めて、あるいはもっと広い範囲ということに関しては、それについても是非幅広い意見を聞く中で、参考になる意見をいただきたい。ただ最終的には駅周辺の整備というものなので、なるべくそこに繋げていきたい。駅を使う人は、その周辺に住む人だけではなく県内各地の人になるので、そこについても参考となる意見をいただきたい。

委員：資料13について3つ述べたい。1つ目は、コジェネレーションというガス発電をイメージされるが、燃料電池とか山梨県らしい自家発電設備が導入できれば災害にも強いし、是非山梨県らしい設備を導入できればと思う。2つ目は、蓄電とかなっているが、例えば電気自動車とか水素ができれば燃料電池の自動車とか、エネルギーと交通をうまくからめて低炭素なまちづくりに結びつけられればなどと思う。3つ目は、コジェネレーションで発電すると熱が出てくるのだが、資料13だと熱をA B C D 4つの施設で使うイメージである。もし可能性があれば熱を観光とか農業に利用し、ちょっとでも山梨県駅に降りてもらえるような山梨県らしいものを付け加えたいと思う。

事務局：是非、次からの議論で積極的に教えていただきたい。

委員：人口増対策、成長戦略について県庁で総力をあげてやっていると思うが、そういうことをどの程度この場に出して議論していくのか。ここにいるメンバーもそういう情報があった方が、山梨県はどういったところに力を入れているかわかって、いい議論ができるのではないかと。

事務局：なかなか人口の話は多岐にわたり難しい。次回まで考えさせてほしい。どういった形で示すことができるか、委員長とも相談しながら資料を用意していきたい。

委員：人口の話が難しいことは承知しているが、産業振興機能みたいなことを議論するときに県はどのあたりを狙っているのだろうかということがそれなりにわかった方がいい議論ができると思う。可能な範囲で良いが、情報提供があった上で議論できれば良い議論になるのではないかと。

委員：人口がどんどん減少して行って、山梨県でもこの地域で住宅を含めた開発をするとなると、県内でパイの奪い合いになる。さらにここは市街化調整区域で基本的には開発をしないし、

優良農地が多くある。制約条件というか県の考え方を次回までに整理をしておく必要がある。県としてリニア効果で、定住人口をこの地域で増やすことを前面に打ち出すのか。

事務局：各委員から産業振興の話、定住人口の話、エネルギーの話についてご意見をいただいたが、今日詳しく説明できないのは、産業の振興は産業労働部、エネルギーはエネルギー局、人口減少対策については知事政策局と専門のセクションがあり、リニア交通局と密接に連携しながら、今まさに検討を進めているところであるため。よって今日出せる資料も限られるし、補足の説明も難しいが、出てきたご意見を持ち帰り、委員長とも相談しながら今後の議論をどのように進めていくか、またどのような説明をしていくか内容を詰めて、次回の議論に反映させていきたい。

委員：第2回以降各テーマの検討とのことだが、各テーマは何を想定しているのか。特にこの検討委員会で検討してほしいことは何なのか。それからアイデアはどこまで言ってよいのか。すでに議論されて積みあがったものもあると思うし、それをぶち壊したようなことを言っても青年の主張みたいなことになってしまう。ある程度今までの議論を踏まえた上で、本当にそれで良いのかと思えることがあれば意見を出していきたい。

事務局：第2回以降のテーマについては、まず検討していただきたい項目として資料11の5つのテーマを例示し説明させていただいた。本日はこのような項目があることを確認していただいて、第2回以降、議論していただきたい。テーマがこれでいいのか議論してもらうわけではなく、次回以降こんな話をしたいというのをお願いしたい。県としては、5つのテーマが主要との考えで提示したが、他にもテーマがあることを提案していただければ6つ目、7つ目のテーマとして設定したらどうかとご意見をいただきたい。これまでの議論は、ある意味抽象的というか非常に漠然としたものがあるので、ここで提示したテーマについては、もう少し具体的な議論をしていただきたいと考えている。

委員：資料9で示されているエリアであるが、今まではこの範囲で検討して、このような機能を入れていこうと議論されてきた。今後はもう少し広い範囲であるかとか、全県どのように繋がっていくのかとか、そういった議論も必要である。リニアの波及効果、周辺の方が人口増になることもあるので、周辺も含めてこのあたりの議論も必要かと思う。それから開業が12年後で、それまではこの範囲で良いかもしれないが、さらにその先を予測して考えるのであればどのようなのか考えて今後のインフラ、地域のあり方全体、最終的にはリニア環境未来都市がどのくらいの範囲でできあがるのかというビジョンの夢もほしい。そういう議論もしていったらどうか。

事務局：資料9は今まで議論してきた範囲であるが、今回についてはさらに広い範囲で考えていく趣旨であるので、この範囲限定ではなくて当然その周辺もいろいろ議論してもらいたい。どのくらいの時期を思い浮かべて議論するのかについては、約10年後と推計しているが、もう少し先まで描いていこうとかそれは考え方がるので、そこは是非議論していただきたい。

委員：今までの話を聞いて、どのくらいの範囲を視野に入れてそれぞれの議論をしていくのかを明確にしてもらうのが大事。例えば資料9でいえばリニア駅周辺の整備は駅前の整備の話であるが、景観というのはリニアの駅周辺整備のときにどう景観を考えていこうか、あるいは近郊のまちづくりの時のアドバイスではないかと思う。

それから資料9右側にリニア駅近郊とあるが、これはリニアビレッジであるとかリニアタウンみたいなある程度想定する範囲を広げての話ではないか。リニアが開業して便利になる地域として甲府市大津町や中央市極楽寺などがある一方、笛吹川南側の地域は果樹園があったりする。この地域に新しくIターンUターンの人が来る。近郊エリアの範囲を何キロ圏と明確にしていった上で、資料11の定住がでてくるのかなと思う。

エネルギーは駅周辺なのか、それとも周辺の工業団地みたいなものも関わってくるのか。もしかすると田んぼを潤している水を何かエネルギーとして使うとなれば、もっと広い範囲になるのではないか。

ここで議論していいかわからないが、甲府の市街地との関係はどう考えるのか。リニアが開業すると品川から25分と驚くべき時間になり、そういう距離感になる。そうなった時、環境未来都市をどういう位置づけにするのか。甲府とは違う街なのか、あるいは甲府とこのような関係をもった街なのだという議論を是非ここでしていきたい。おそらく10キロ圏とか〇で囲った範囲を書くところなのではないか。

さらに大きな範囲というのか観光・交流になると思う。これは山梨県レベルの話をしていくところ。ちょっと漠然としたライフスタイルとかビジョンといったものも入ってきて良い

のではないか。

観光・交流とは違い、産業振興というのは山梨県レベルではなく、もう少し縮めた中に入ってきて、工業団地との連携とか中央自動車道や新山梨環状道路との関係なのかなと思う。リニアは人を運べても物は運べない。物流拠点と関係なければ全然意味が無いので、きちんと仕分ける必要がある。

一番疑問なのは、この資料の中に富士山と書かれていないことである。東京圏の人からすると25分で富士山の足元まで行けるのはすごく魅力なのだが、今はこの地域から行くとなると不便だと思う。リニア開業まであと十数年ある中で富士山への新しいアプローチをしっかりと確保できれば、リニアの駅から富士山に近く行ける、また普段行くのとは違うものが見えると言うところまで示せばおもしろいかなと思う。

次回の委員会で資料を作るときは、このテーマはこの範囲というのを示していただければと思うし、そうしてもらえると私たちも議論しやすい。

事務局：今いくつか指摘があったので、資料の準備との関係になってくるので、どんな形にするか委員長と相談しながら整理していきたい。

委員：今エリアの話が出たが、ここでエリアをどこまでにするのか議論するのか。それともこのエリアの中でと決めたものをこの委員会のなかで議論していくのでは、議論の仕方が違ってくる。その方向性を示してもらおうほうが、議論がよりし易くなる。

事務局：エリアの設定は難しい。いろいろな視点から駅との関係を考えていく中で、様々なものが重層しながら決まっていくというか影響範囲が出てくると思う。いろいろなご意見の中からエリア設定の考えに組み入れたいと思っている。こういう考えでこういう議論をするからこのエリアを設定するといった方が、わかりやすいと思う。何を議論するときのエリアなのかについては、もう少し整理した上で出していきたい。

委員長：エリアを考えながらというのは難しい。例えば12年間で山梨県が総力をあげて整備できる範囲はどれくらいだろうか、民間が自発的に開発するものもあるし、あるいは周辺の市がそれぞれ整備するものもあるので、それによってはエリアがいろいろになる。

委員：先程の補足になるが、エリアを確定させてその事業を自治体にやってほしいという話ではなく、こういう漠然とした話をするときに何となく想定する範囲をみんなで共有しましょうという話である。それを設定しないとポイントがズレ始めて、話がまとまらなくなってしまう。

委員：25分で品川からここに着くのには驚きである。それは東京都内の移動の時間でここに来られてしまうということ。山梨県のいいものと東京の機能をそっくり持ってこられるようなそんな思いがした。例えば老人ホームができたり、ホスピスができたとしても25分で会いに行けるのであればそういうものもできる。東京都内と何ら変わらないものがここにできた上で山梨県らしさがプラスされたら、すばらしいビレッジになるのではないか。結構規模も大きいエリアになるかもしれないと思った。

委員長：今日は第1回ということもあり、今後各テーマをもう少し掘り下げることになるかと思う。

(3) その他について

特になし

以上